

Quarterly

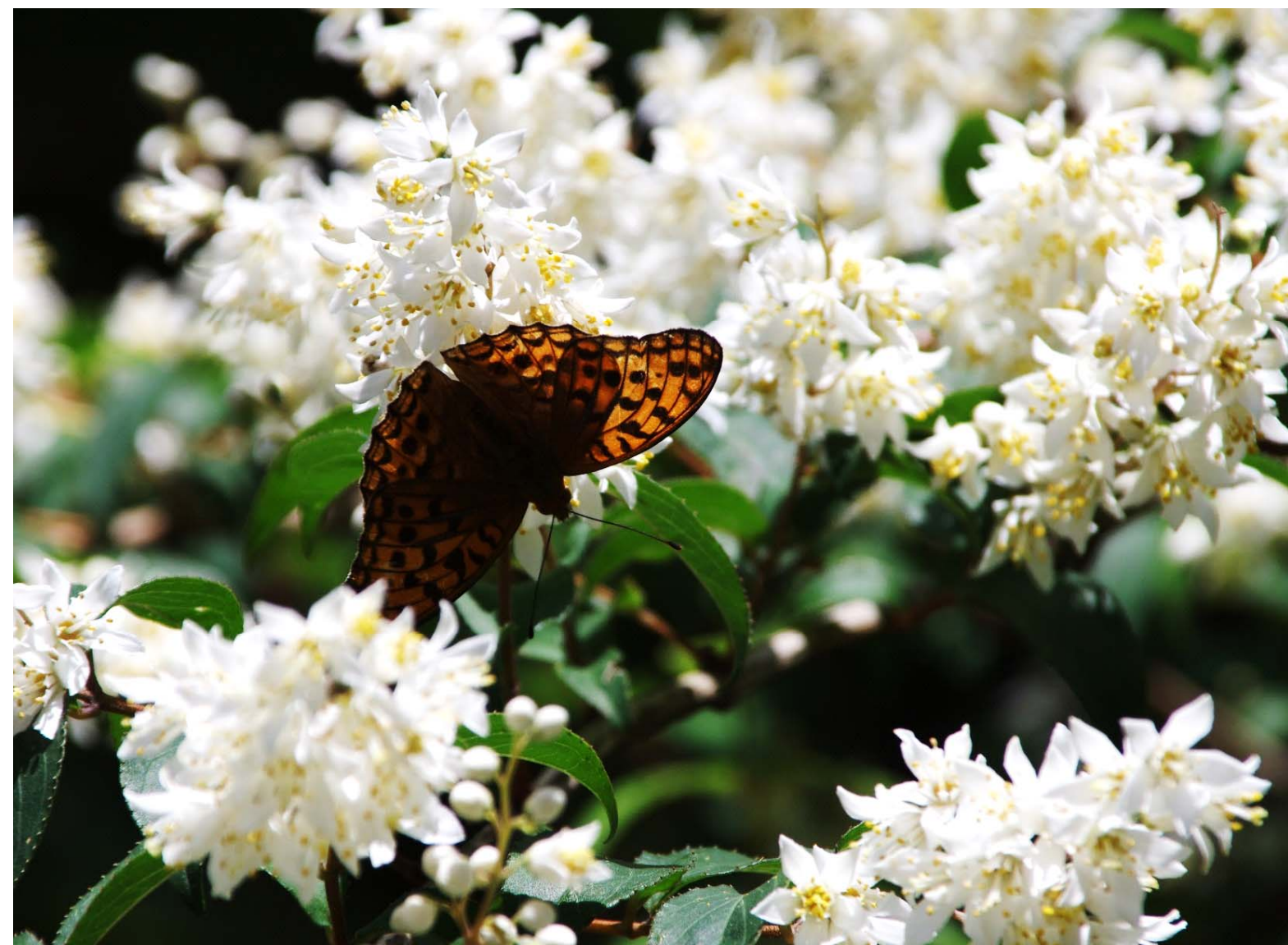
# HeadLine

Vol. **3**

2014 春

## 3.11を乗り越えて…陽はまた昇る

- ◆大規模災害から国民の命を守る
- ◆「異次元緩和」から1年
- ◆ヘビ型ロボット
- ◆水道局長がビクビクする「虫」
- ◆巨人優勝なら景気は？
- ◆メディアの未来 . . .



## 【直言】

### 大規模災害から国民の命を守る

リコー経済社会研究所 所長  
(株)リコー 取締役 専務執行役員 稲葉 延雄

3

## 【被災地は今…】

### 3.11を乗り越えて…陽はまた昇る

震災復興と構造改革 不撓不屈の釜石市・大槌町  
社会構造研究室 主席研究員  
RICOH Quarterly HeadLine 編集長 中野 哲也

4

## 【経済統計の謎を解く】

### 依然高いハードル デフレ構造からの脱却

日銀の「異次元緩和」から1年  
経済研究室 主任研究員 小川 敦之

10

## 【ヘッドライン】

### 蛇は毒にも薬にもなる！

期待高まる「ヘビ型ロボット」の普及  
社会構造研究室 主任研究員 栗林 敦子

12

### 全国の水道局長がビクビクする「虫」

万一、発生してしまうと…  
環境・資源・エネルギー研究室 主任研究員 柳橋 泰生

14

### プロ野球開幕 日本シリーズと景気の深い関係

市場が無視できないジンクスとアノマリー  
経済研究室 研究員 可児 竜太

16

## 【潜望鏡】

### メディアの未来を考える 金山勉・立命館大教授との対話

社会構造研究室 主席研究員  
RICOH Quarterly HeadLine 編集長 中野 哲也

18

表紙写真 天城高原（静岡県）  
(株)リコー 代表取締役  
会長執行役員  
近藤 史朗  
PENTAX K-r 使用

## 第3回 大規模災害から国民の命を守る

リコー経済社会研究所 所長  
 (株)リコー 取締役 専務執行役員 稲葉 延雄

3.11から3年が経過したが、その一方で、大規模自然災害が新たに発生する蓋然性も高まっている。死者・行方不明者合わせて1万8000人余にも達した大災害の悲しみは今なお癒えることはないし、震災からの復興も途上である。だがそれ故にこそ、次の災害に備えて国土を一層強靱なものにしていく努力を怠るわけにはいかない。これまで営々と培ってきた防災・減災の英知に東日本大震災の尊い経験を重ね合わせ、大規模自然災害から真に国民の命を守っていける社会を構築する一。これこそ、自然災害の多い日本列島に住む私たちに課せられた責務である。

大規模自然災害に強い国づくりに向けて、政府の取り組みも本格化している。昨秋には首都直下地震や南海トラフ地震への対応策として、国会で国土強靱化基本法が成立し、それを受けて政府は国土強靱化政策大綱を決定した。ただ、その取り組み内容をみると、政府が主体的に行う政策をまとめたという制約からか、国としての対応が中心となっており、民間や自治体の役割があまりとり上げられていない。また、ハード面（防潮堤など防災のための社会資本）の整備だけでなく、ソフト面（防災教育や避難訓練など）での対応の重要性も一層強調されてよいように思われる。

実際、大規模災害から国民の命をハードの社会資本だけで守ろうとすると、その規模、コストとも巨大かつ巨額になり、財政的にも対応が難しい。むしろ今回の震災では、教育や訓練などソフト面の対応のおかげで、多くの命を救うことができた事例が各地から報告されている。防災・減災をすべて「公助」に頼るのではなく、災害の悲惨さを伝承する教育や災害から身を守る日頃の訓練など、住民による「自助」と地域コミュニティの「共助」がもっと重要視されるべきである。

一方、災害発生時の対応として、産業界でも業務継続を通じて財・サービスの供給責任を果たすことが一層強く求められる。特に災害発生直後には、情報通信や物流、金融、さらにはエネルギー供給のネットワーク機能の確保が極めて重要になる。この面では、公的当局と民間の役割分担が不可欠である。

そのためには、まずもって個別企業におけるBCP（業務継続計画）の確実な実行が求められる。また、業界全体あるいは業種を越えた業務連携を実現する必要もある。しかし、平時の業務体制が有事に必ずしも最適とはならない面があるし、災害発生時には本社機能の喪失や情報遮断、輸送の機能不全など、様々な障害が予想される。

したがって、企業としても平時から日々の業務の中に、災害対策に関する「ホットスタンバイ」（普段からバックアップを想定して通常業務を行う組織）となる施策を組み入れておくことが重要である。大規模災害に対して、こうした努力は強靱な企業組織を構築するために必須な活動である。同時に、災害発生時の企業活動の継続はそれ自体が重要な社会的責務を負っていることを、産業界も改めて強く自覚する必要がある。

## 3.11を乗り越えて…陽はまた昇る 震災復興と構造改革 不撓不屈の釜石市・大槌町

社会構造研究室 主席研究員

RICOH Quarterly HeadLine 編集長

中野 哲也

2011年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0という国内観測史上最大の地震が発生し、巨大津波が牙をむいて太平洋沿岸に襲いかかった。死者・行方不明者は1万8000人を超える。岩手県三陸沿岸を取材して歩くと、東日本大震災から3年が過ぎても、被災地には深い傷痕が残されたまま。しかし、市民は陽がまた昇る未来を信じ、不撓不屈の精神で復興に粘り強く取り組んでいる。

### 壊滅した岩手県大槌町 立ち上がったのは…

「包丁一本見つからない…俺はすべてを失ったのか…」一。40年にわたり三陸海岸中央部の岩手県大槌町（おおつちちょう）で芳賀鮮魚店を営んできた芳賀政和さん（70）が瓦礫（がれき）の山に入ると、そこには変わり果てた自分の店が…。すると、金縛りにあったように体が動かなくなった。

芳賀さんは3.11を外出先の岩手県宮古市内で迎えた。未だかつてない激しい揺れに耐えると、沖合で立ち上っていた「白い煙」が視界に入った。突然、幼いころ父親から聞かされていた教訓が頭の中によみがえり、「大津波が来る」と咄嗟に判断。車を捨てて近くの中学校を目指して崖を登り、辛うじて一命をとりとめた。

しかし、家族や店が気がかりで、芳賀さんは居ても立ってもいられない。車に戻って必死でハンドルを握り続け、翌日未明、へとへとで故郷に転がり込んだ。幸い、妻の洋子さん（70）は無事だったが、町の中心部は「焼け野原」。地震と津波と火災により、跡形もなく壊滅していた。大槌町では人口の1割近い約1300人が犠牲になった。



崩壊した大槌町役場旧庁舎が3.11を今に伝える



未だに大槌町中心部は…

電気・ガス・水道のライフラインは断絶した。芳賀さん夫妻は冷え切ったコタツに体を突っ込み、ただただ震えるだけ。巨大津波は親類や仲間の命を一瞬にして奪い、人生の糧である店舗を破壊した。それでも、芳賀さんは「自分でも不思議だと思うんだけど、海を憎むことはなかった」一。15歳で漁師になり、30歳からは鮮魚の販売・加工で生計を立ててきた。「半世紀以上、海の恵みのおかげで俺は生きてこられた。だったら、店を再開して魚を売るしかないじゃないか！」と自分に言い聞かせると、ようやく立ち上がることができた。

とはいえ、店舗も機械も道具もない。ゼロからのスタートを考えると、芳賀さんは再び途方に暮れる。そんな時、行政からインターネットを活用する再建策を助言された。デジタル技術とはほとんど無縁の生活を送ってきたし、キーボードもたたけない。だが、覚悟を決めて鮮魚販売の仲間にネット通販の共同事業を提案。資金はないから、ネットを通じて全国から「サポーター」（一口1万円）を募ることにした。それを再建資金に充て、成功すれば「配当」として大槌産の鮮魚を宅配するという仕組みである。

大震災から5カ月後、こうして芳賀さんと3つの業者が「立ち上がれ！ど真ん中・おおつち」プロジェクトを発足。パソコンの得意な女性職員を雇い入れ、メールマガジンのほか、ツイッターやYouTubeなどもフル活用した。朝日新聞が全国版でとり上げたこともあり、サポーターの輪は予想をはるかに超えるスピードで拡大。ネット販売は軌道に乗りはじめ、サポーターに旬のサンマなどを「配当」できるようになった。プロジェクトは協同組合に発展し、芳賀さんが理事長に就いた。

ところが、芳賀さんはサポーター5000人達成の寸前で、募集を突然打ち切ってしまった。「水産業界の革命なのに、どうしてやめたのですか」と尋ねると、芳賀さんは「次の大津波がいつ来るか俺には分からない。その時は、サポーターに『配当』ができなくなる。そう考えると胸が締めつけられ、眠れない夜が続いたんだ…」とその心境を明かした。

サポーター募集をやめても、芳賀さんの店は回復軌道を維持している。だが、原発事故に伴う風評被害にも苦しめられ、売上高は大震災前の半分にも届かない。また、崩壊した冷凍施設の再建にめどが立たないし、芳賀さんは古希になっても後継者が見つからない。難題が山積しているのだが、「やる気とノウハウがある限り、仕事は続ける。妻と喧嘩しながらね…」という芳賀さん。キラキラ輝く夫妻の笑顔が、復興に向けて最強のエンジンとなる。

## 人の生死は「運命」で片づけられない

大槌町に隣接する岩手県釜石市。かつて市内の橋の上には、鮮魚やその加工品、野菜を扱う店がたくさん並んでいた。今は駅前橋上市場「サン・フィッシュ釜石」に生まれ変わり、市民の台所や観光スポットとして賑わう。

昆政商店の菊池フサ子さん（71）は橋上市場時代から三十年余、海産物を販売している。3.11では、「小船が台風にもてあそばれているような強烈な揺れ」に襲われた。外を見ると、頑丈な街灯柱が右に左にグニャグニャ曲がっている。携帯ラジオを聴いていた市場のだれかが大声を張り上げ、「津波が来るぞ!!!」一。しかし、1960年のチリ地震津波を経験した菊池さんも、どの方向に逃げるべきか迷いに迷った。

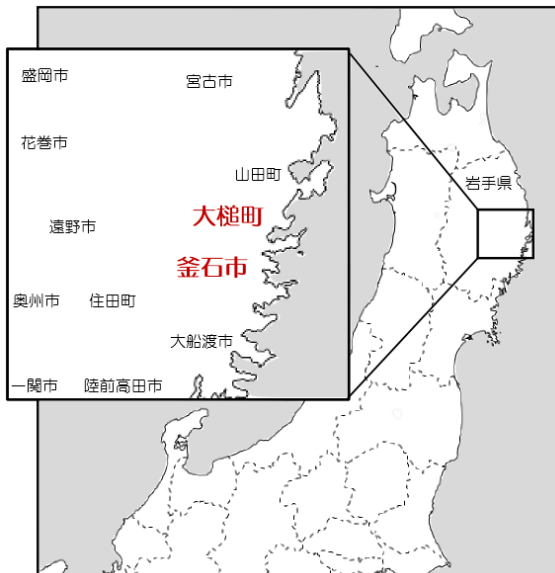
結果として逃げた方向は正解だった。だが、菊池さんは「人の生死を『運命』で片づけたくない。そんなものはないと思うから…」と声をつまらせ、目頭を押さえた。首都圏から地元に戻り家業を継いだ、愛する弟夫妻を亡くしたという。大震災後、菊池さんは不眠や吐き気、めまいに悩まされ続けてきた。「もう3年、いやまだ3年。どっちなのか分からない…」一



壊滅から立ち上がった芳賀さん夫妻



(上) 駅前橋上市場「サン・フィッシュ釜石」  
(下) 市場で販売30年 菊池フサ子さん



岩手県釜石市・大槌町周辺地図 (作成) 花原 啓



## 釜石市長も「茫然自失」 頭の中が真っ白に…

大震災発生直後、釜石市の野田武則市長（61）が市庁舎の2階から外を見ると、まさに巨大津波が街に襲いかかろうとしていた。「自分の手の届く世界ではなく、別の世界で起きている気がした。頭の中が真っ白になってしまい、事実として受け入れられない。『茫然自失』という言葉しか思いつかなかった…」一。しかし次の瞬間、頭の中のスイッチが「市長」という現実に取り替わる。対策本部を立ち上げ、無我夢中で陣頭指揮を執りはじめた。

街は瓦礫の山となり、電気や水道などは寸断。緊急時に備えていた衛星携帯電話が役に立たず、通信も完全に遮断。対策本部は孤立無援となり、頼みの綱はロウソクの灯りだけ。湾岸部は最大20メートル近い津波にのみ込まれ、死者・行方不明者が1000人を超えた。

海に近い街の中心部が壊滅する中、過去の大津波の教訓は生きていた。釜石の子どもは普通の授業から、「想定にとらわれるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」を三原則とする防災教育をたたき込まれている。だから大震災でも小中学生は冷静に行動し、ほとんどの児童・生徒が無事避難した。釜石小学校では、9割以上の児童が既に下校していたが、全員が教えを守り自らの命を守った。野田市長は「子供が親を説得して、より高いところさらに高いところまで逃げ、命を守った家族が少なくない」と振り返る。



3.11直後、陣頭指揮を執る野田武則釜石市長（左）  
（提供）釜石市役所



現在の釜石市街

釜石の中心街を歩いて回ると、瓦礫はきれいに片づけられ、道路は概ね復旧しており、復興作業が急ピッチで進められていた。その一方で、3年経っても空き地が目立ち、放置されたままの建物に衝撃を受ける。



（上）「青いライン」まで津波が襲ってきた（釜石港湾合同庁舎）  
（下）崩壊後も放置されたままの書店



復興計画を作っても、市と国の各省庁、県、地権者などとの調整が容易でなく、何度も作り直さなくてはならない。最近、建設資材や労務単価の高騰が苦勞して作った計画に影を落としている。野田市長の自己採点では復興の進捗度は30%にすぎない。しかも住居に限れば、「ゼロ%」と言い切る。なぜなら人口約3万7000人のうち、5000人を超える市民が依然、仮設住宅での生活を強いられているからだ。

家賃無料でも、仮設入居者は「断熱効果が乏しいため、冬は非常に寒い。暖かくしようとすれば、自己負担の光熱費が二倍以上かかってしまう」「狭いから、受験生がいても勉強部屋を確保してやれない」と不満を訴えている。新設された公営復興住宅への入居は始まっているが、立地や家賃などに問題点も指摘される。仮設暮らしが解消されて初めて、釜石市民は復興、いや「復幸」を成し遂げたとと言えるのだろう。



(上) 釜石市中心部の仮設住宅  
(下) 仮設酒場は復興の「エネルギー源」



## 日本初の洋式高炉から「鉄の街」に発展

釜石市教育委員会によると、釜石という地名の由来はアイヌ語の「クマウシ」。クマ＝「魚干し棚」あるいは「飛び跳ねる」、ウシ＝「存在する」を意味する。古代から複雑で優美なリアス式海岸に魚が集まり、それが生活の糧となってきた。年間平均気温は11.2度と東北地方では比較的温暖な気候であり、積雪も内陸部より少ない。

江戸時代中期、釜石西部の大橋で磁鉄鉱が見つかった。その後、大島高任が従来の砂鉄ではなく、鉄鉱石を原料とする洋式高炉を築き、1857年に日本で初めて銑鉄の製造に成功した。以来、釜石は「鉄の街」として急速に発展する。

太平洋戦争末期、製鉄所は連合軍による艦砲射撃の標的となる。壊滅的な打撃を受けたものの、戦後は鉄鋼産業が高度成長の波に乗り、「北の鉄人」こと新日鉄釜石ラグビー部（現在はクラブチーム「釜石シーウェイブス」）は日本選手権7連覇。釜石市の人口も最盛期には9万2000人に達し、「鉄と魚とラグビーの街」として繁栄した。

しかし、その後のグローバル化の波には抗し切れず、新日鉄は1989年に高炉の火を消し、鉄鋼の一貫生産を中止。街では「鉄冷え」との闘いが始まった。今も新日鉄住金釜石製鉄所を維持しているが、線材の生産にとどまり、従業員も約220人（本体のみ）にすぎない。



新日鉄住金釜石製鉄所

## 人口は最盛期の4割 3人に1人が高齢者

釜石市の人口は最盛期の4割まで激減する一方で、市民の3人に1人が65歳以上のお年寄りになった。市は困難な復興事業を加速させると同時に、「企業城下町」から脱却し、少子高齢化も克服しなくてはならない。

野田市長は「一本足打法」だった地元経済の構造改革を打ちだし、バランスのとれた産業構造への転換を急いでいる。具体的には、①高齢者包括ケアによる、安心感のある街づくり②太陽光発電など再生可能エネルギーの拡大による、エネルギー供給基地化③コバルト合金の生産や水産業6次化（生産、加工、販売の総合化）などによる、新産業の創出が釜石の未来を担う。

既に構造改革は芽を出しはじめた。釜石市にトヨタ自動車が協力したオンデマンド型の小型バスが走り、交通の便の悪い仮設住宅の高齢者には貴重な足になっている。市民は登録証を発行してもらった上で、予約すれば希望の停留所・時刻で利用できる。タクシーと路線バスの中間的な公共交通システムであり、運営者は需要に応じて運行を柔軟に変更できるため、過疎地でも効率的な事業が期待されている。

かつて釜石にも街中にショッピングセンター（SC）があったが、その撤退後は市内から大規模商業施設が消えた。このため週末になると、2000台ものマイカーが盛岡市などのデパートやSCまで出掛けるという。これでは貴重な復興資金が市内で循環せず、市外へ流出してしまう。大震災後、市はSC誘致に乗りだし、「イオンタウン釜石」（56店舗、駐車場1240台）が3月14日、新日鉄住金の所有地にオープンした。従業員約620人の7割を、釜石市や近隣市町村の住民から採用したという。

一方、地元商店からは「客をSCに奪われてしまう」「イオンタウンに出店したくても、テナント料が高過ぎる」といった不安や不満が聞こえてくるが、野田市長は「地元での購買率を何とかして引き上げたい。イオンの集客力を販路拡大のチャンスととらえ、やる気のある商業者には業態転換や新商品開発などを積極的に支援する」と市民に訴えている。



中心街にオープンした「イオンタウン釜石」（建設中に撮影）

このほか、市は「スマートコミュニティ」計画にも着手している。学校や復興住宅などに太陽光パネルを設け、平時でも災害発生時でも電力の自給自足を目指す。また、広域風力発電や木質バイオマス発電といった再生可能エネルギーの市外供給力を増強し、地元雇用の拡大を視野に入れる。また、電力供給者と各家庭を「賢い送電網」（スマートグリッド）で結び、ICT（情報通信技術）をフル活用して節電やCO<sub>2</sub>排出量の抑制に取り組むという。

しかし、インフラ整備に代表されるハード面の復興だけでは、釜石の未来は拓かれない。都市間競争の時代では、観光やスポーツ、芸術といったソフトパワーが街の命運を握るからだ。市も橋野鉄鉱山のユネスコ世界遺産登録や、日本で開催される2019年ラグビーW杯の試合誘致を目指し、ロビー活動に力を入れはじめた。それを後押しするように、JR東日本が4月12日に「SL 銀河」（花巻⇄釜石）の定期運行を始める。NHKドラマ「あまちゃん」の舞台となった三陸鉄道もようやく全線再開する。



（上）試運転中の「SL 銀河」（JR釜石駅）  
（下）全線再開を待つ三陸鉄道（北リアス線小本駅）



## 民間企業から市へ出向 「助っ人」が人材育成

震災復興と構造改革を同時に進めている釜石市だが、最大の問題は「人」の確保である。市内に大学がなく、若い人材の大半が市外に流出してしまう。このため、市が頼みとする強力な「助っ人」が、各企業からのボランティア社員である。

リコーから経済同友会経由で市産業振興部に出向中の野村卓哉さん（34）と堀部史郎さん（37）は仮設住宅で暮らしながら、復興事業に取り組んでいる。「仮設住宅から最寄りコンビニまで歩いて45分」「ファストフード店がないから、残業後の夕食は酒も飲まず独り居酒屋で」「朝干した洗濯物が乾く前に凍りつく」一。都会暮らしの長い2人は、赴任当初から戸惑いの連続。それでも顔には充実感があふれている。



野村さんは妻を東京に残して単身赴任。「(宮城県仙台市の)東北大出身だから、大震災直後から居ても立ってもいられず、被災地で貢献したかった。特許関連の仕事で身につけた戦略的思考が、復興事業でも役立っている」という。堀部さんはリコーでコンピューターのプログラマーとして働いていたが、同社が立ち上げた復興支援室への異動を志願。当初、釜石市内には寝る場所がなく、車で2時間かけて岩手県奥州市から市役所まで毎日通い続けた。「仕事相手がパソコンから人、それも復興に挑む市民に変わり、刺激的な勉強をさせてもらっている」

塾長の大山健太郎アイリスオーヤマ社長が「一人の力は小さくなくても、10人が束になれば、釜石が変わっていく第一歩になる」、副塾長の高橋真裕・岩手銀行頭取は「進むべきか退くべきか迷ったら、進んでいくべきだ。なぜなら失敗したとしても、得るものがあるからだ」とそれぞれエールを送った。そして最後に、野田市長が第一期生を「釜石維新の志士」と命名した。「志士」一人ひとりの夢が実現する時、この街もよみがえり、陽はまた昇る。



リコーから経済同友会経由で釜石市役所出向中の野村さん(右)と堀部さん(左)

経済同友会が特別協力し、人材育成と復興計画の具体化に取り組む「東北未来創造イニシアティブ」の運営が、この2人の重要なミッションである。その人材育成道場「未来創造塾」の門をたたいた塾生の「伴走者」となり、野村さんと堀部さんは釜石の未来を担う若手経営者10人と体を張って付き合う。徹夜も辞さず議論を重ね、誉めたり、怒ったり、笑ったり、泣いたり…

2014年3月1日、第一期生の卒塾式が釜石市内で開かれた。卒業論文となる事業構想の発表では、「焼き魚のアジア輸出」「和菓子で世界中に笑顔を創造」「釜石をSOBA(蕎麦)の里に」「三陸産ホタテ貝のブランド化」「街の(空き地、空き家、墓の)見守り隊」…。いずれの構想にも故郷への強烈な愛情と危機感があふれており、式会場では称賛する拍手が鳴り響いた。



陽はまた昇る(釜石湾の日の出)



人材育成道場「未来創造塾」の卒塾式

(写真) 筆者  
※提供分を除く

# 依然高いハードル デフレ構造からの脱却

## 日銀の「異次元緩和」から1年

経済研究室 主任研究員 小川 敦之

デフレ脱却を目指して、昨年4月に日本銀行が「量的・質的金融緩和」、いわゆる「異次元緩和」の導入を決定した。これは、アベノミクスの第一の矢、「大胆な金融政策」を具体化したものといえる。本政策の決定から1年が経過する。現時点でデフレ脱却の状況を点検した上で、今後を占いたい。

### 異次元緩和とは何か？

初めに異次元緩和の内容について確認しておく。伝統的な金融政策は、政策金利を上げ下げすることにより、景気や物価へのテコ入れを行ってきた。しかし、政策金利がゼロまで低下した場合には、それ以上金利を引き下げることが不可能となる。

このゼロ金利制約の下で、更なる政策効果を狙って試みられている金融政策が量的緩和政策であり、それを大胆に行うという意味で「異次元緩和」と俗称されている。具体的には、日銀が長期国債などを大規模に買い入れることでマネタリーベース（日銀が供給する通貨量）を2年間で2倍に拡大し、2年程度を念頭に消費者物価の前年比2%上昇を目指すものである。

それでは、異次元緩和はどういったメカニズムで物価を上昇させるのか。その効果としては、第一に、日銀が長期国債などを大量に買い入れることにより、長期金利の低下を促すことが考えられる。第二に、そうした金利低下効果などにより、株式などの資産価格が上昇したり、為替相場が円安化したりすることが挙げられる。

この長期金利の低下や株式などの資産価格の上昇、さらには為替相場の円安化が、設備投資や個人消費、輸出などを刺激することで、マクロ経済の需給ギャップが改善され、物価が上昇するというメカニズムが想定できる。

### 異次元緩和で何が動いたか？

それでは、こうした異次元緩和による措置が、日本経済にどのような影響を与えてきたのか。この間の経済指標の動きを見ていきたい。

まず、長期金利は異次元緩和前から低下基調にあったが、振れを伴いつつも低下傾向を示している。また、株価についても上昇傾向にあるし、為替相場も円安化した（図表1）。

（図表1）長期金利と株価・円相場

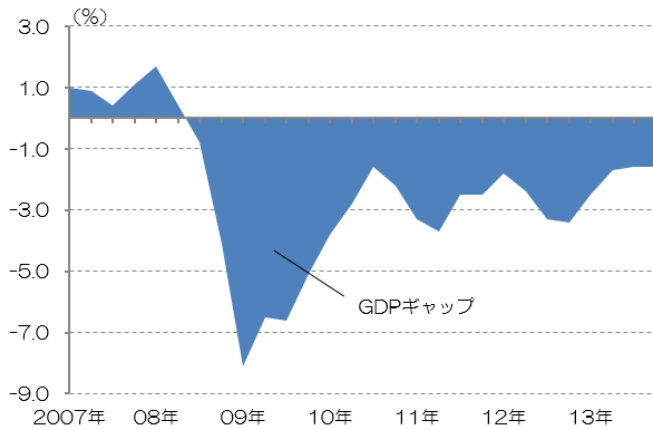


（出所）日本経済新聞、ブルームバーグ

次に、需給ギャップが改善したかどうかを確認しよう。図表2は、潜在GDP（国内総生産）と実際のGDPの乖離率である「GDPギャップ」を示したものであり、マクロ経済の需給バランスを意味する。

これによれば、昨年に入りGDPギャップは、依然としてかなりのマイナスではあるものの、その幅が縮小傾向にあることが分かる。ただし、この間に大規模な補正予算編成など拡張的な財政政策が講じられたことから、その効果も相当程度含まれるとみられる。

(図表2) GDPギャップ

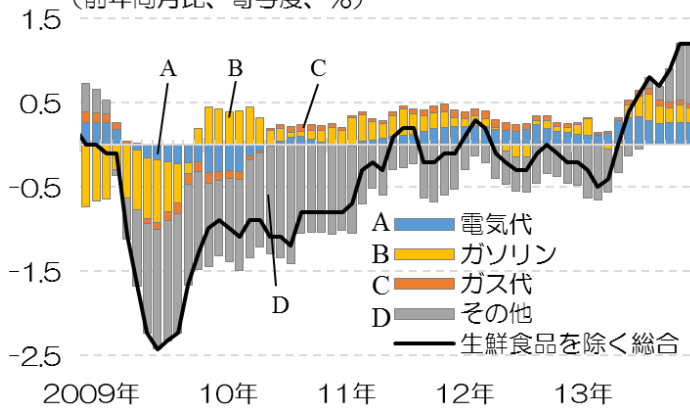


(出所) 内閣府

では、デフレはどうなったのか。図表3で物価の動向を見ると、消費者物価の前年同月比は、昨年後半からプラスへと転じている。その内容を見ると、円安などによるエネルギー価格の上昇が主因だが、「その他」の要因も徐々にプラスとなってきている。つまり、需給ギャップの改善傾向を背景に、広範にわたる品目で価格が上昇しはじめた様子がうかがえる。

(図表3) 消費者物価

(前年同月比、寄与度、%)



(出所) 総務省

## デフレ構造からの脱却は？

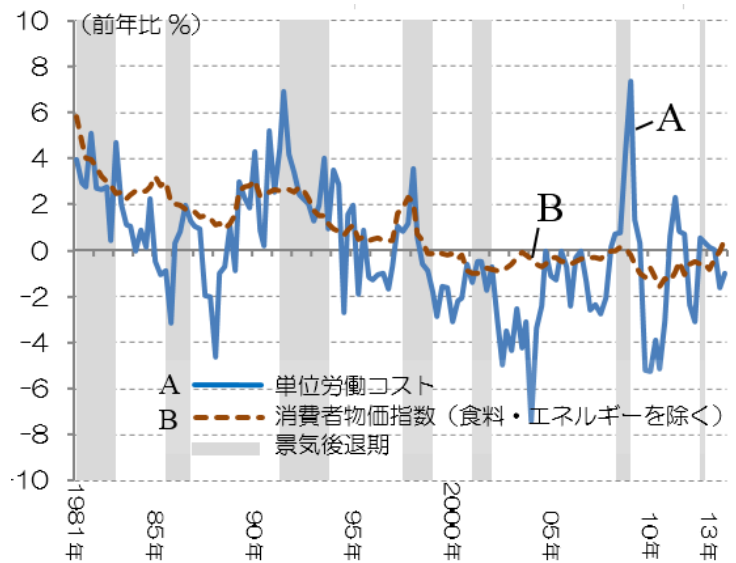
以上の通り、徐々に物価は上昇しはじめている。GDPギャップもかなり縮小したが、なお改善の必要がある。そうであるならば、焦点はこの動きがこれからも持続していくかどうかである。

物価上昇の持続性を考える上での一つの重要な視点として、賃金の動向が挙げられる。その理由は、需給ギャップの縮小に伴い、賃金も上昇していけば、個人消費の安定的な増加がもたらされ、物価の持続的な上昇の土台となると考えられるからである。

図表4は、生産物を1単位産み出すのに必要な賃金を表す「単位労働コスト」の推移を、消費者物価と対比して示したものである。これを見ると、単位労働コストが増加傾向を示す時期に、消費者物価も上昇傾向になるという関係が確認できる。

そこで、異次元緩和導入後の動きを見ると、先にも述べた通り、消費者物価の前年同月比が昨年後半からプラスに転じている一方で、単位労働コストは未だプラス基調とはなっていない。したがって、この点からすれば、デフレ構造からの本格的な脱却は当面先になると考えられよう。

(図表4) 単位労働コスト



(出所) 内閣府

以上の通り、異次元緩和の波及メカニズムは必ずしも明確とはいえないが、長期金利の低下と株価の上昇、為替相場の円安化、マクロの需給ギャップの縮小、物価の上昇という「現象」は確認された。

しかし、単位労働コストの動きを見ると、物価上昇の持続性が確認できるまでには至っていない。単位労働コストについては、2002～08年初頭まで続いた戦後最長の景気拡張局面においても、ほぼマイナスで推移しており、今春闘を経てこれが本当に上昇基調となるのかが注目される。

過去1年のマクロ経済の動向は、日銀の想定から大きくは乖離していないように見えるが、デフレ構造からの脱却のハードルは依然高い。これからの産業界の投資拡大・雇用創出が重要なカギを握っている。

## 蛇は毒にも薬にもなる！ 期待高まる「ヘビ型ロボット」の普及

社会構造研究室 主任研究員 栗林 敦子

「ヘビが好きか？」と聞かれたら、多くの人は顔をしかめるだろう。

ところが、神社のしめ縄や床の間に飾る新年の鏡餅は、ヘビをモチーフにしたという説があるほど、古代から日本人の生活とは密接な関係がある。アジアでは中国やインドでも、ヘビは水神や大地母神として大切に祀られている。

ツタンカーメン王の仮面に付けられた「コブラ」が有名なように、古代エジプトではヘビは「権力の象徴」として装飾品に使われていた。ギリシア神話には、ヘビが巻き付いた杖を持つ医療の神アスクレピオスが登場する。この杖は医療のシンボルとして、世界保健機関（WHO）や世界医師会（WMA）などのロゴに用いられている。

このように、ヘビは洋の東西を問わず、古くから原始信仰の対象である。大蛇の姿が大河を連想させるから、ヘビは農耕に不可欠な水や雨をもたらす「豊穡」の象徴となった。また、生涯脱皮を繰り返して再生するように見えるため、「永遠の生命力」と重なり合う。



© iStockphoto.com/RISB

### 世界初の「ヘビ型ロボット」を開発した日本人

人間に「気味悪い」と怖がられる一方で、神として畏れられてきたヘビ。今、その細長い形態とクネクネした動きが、最先端ロボットに応用されはじめています。ロボットというと通常、二足歩行のヒューマノイド型が思い浮かぶ。当然、人間のような動きしかできない。だからヘビ型で、どんな場所でも自在に動き回れるロボットの開発も急ピッチで進んでいるのである。

岩の割れ目などに入って身を守るため、ヘビは紐（ひも）状の体をしている。状況に応じてその体は手にもなるし、足にもなる。もし、ヘビのように動くロボットがあれば、人間の入り込めない狭い場所に入り、作業してくれるだろう。

日本のヘビ型ロボットの開発は、半世紀近い歴史を誇る。そのパイオニアが東京工業大学の広瀬茂男名誉教授であり、1972年に世界で初めてヘビの動きを解明した上で、機械的に再現することに成功した。

当時、広瀬氏はまず東京・渋谷のヘビ料理店で1匹1500円の生きたシマヘビを手に入れ、研究室で飼育を始めた。いろいろな条件を変えながら、ヘビを走らせる実験を何度も何度も繰り返す。ようやく、なぜ体をくねらせるだけで前進するかを突き止め、初代のヘビ型ロボット「ACM-R3」を完成させた。

その後、組み込むモーターやバッテリーなどの技術革新にあわせて、広瀬氏は多彩なヘビ型ロボットの開発に取り組む。2005年愛知万博で、陸だけでなく水中でも自在に泳ぐ「ACM-R5」を出展すると、国内外から驚きの声が上がった。



左は初代ヘビ型ロボット「ACM-R3」（長さ175.5cm、幅・高さ11cm、重さ12.1kg）

右は水陸両用「ACM-R5」（長さ175cm、太さ8cm、重さ8.0kg）

（提供）東京工業大学の福島研究室/広瀬茂男名誉教授

ヘビ型ロボットは各国で様々なタイプが開発されているが、幾つかの共通点がみられる。すなわち、①同じ形のカーブを一定間隔で描きながら前進する②棒状のものに巻き付き、螺旋（らせん）状に動く③かま首を持ち上げ、段差を乗り越える④転がったとしても、ダメージを受けない⑤狭い場所に入り込んだり、水中を泳いだりする一などである。今や、心臓手術から災害救助、火星探査に至るまで、広範囲にわたる分野への応用が期待されている。

## 大震災以降、災害救援ロボットが不可欠に

ところで、2011年3月11日の東日本大震災の直後から、瓦礫（がれき）の中や原子力発電所の内部を探索することが喫緊の課題となり、ロボットへの期待感が大きく高まった。NPO法人の国際レスキューシステム研究機構（IRIS）は、利用可能なロボットのリストを被災自治体に配布。また、研究者や技術者の有志が集い、復旧・復興に向けてロボット技術の有効利用を目指す「対災害ロボティクス・タスクフォース」を立ち上げた。翌月には岩手、宮城両県で行方不明者の捜索のほか、港湾や海底地形、水産資源の調査などで国産の各種水中ロボットの利用が始まっている。

一方、東京電力福島第一原発の事故現場で、最初に投入されたロボットは米国製である。高レベル放射線の下で動かせる国産ロボットがなかったためだ。事故から3カ月経って千葉工業大学と東北大学などが共同開発した、瓦礫などを乗り越えられる災害救助用ロボット「クインス」（長さ66.5cm、幅48cm、高さ22.5cm）が投入され、原発建屋内の放射線量測定に貢献するようになった。過酷な条件下でも使用できるよう、オリジナルのロボットを3カ月で改造し、遠隔操作や耐放射線などの機能を付加したものだ。

大震災が教訓となり、災害発生直後に投入可能なロボットを、平時から備えておく必要性が広く認識されはじめた。とりわけ、センサーやカメラ、通信機能などを備え、どのような場所でも入り込める「災害救援ロボット」として、ヘビ型ロボットへの関心が急速に高まっている。

例えば、広瀬氏の開発したヘビ型ロボット「蒼龍Ⅲ号機」は、無限軌道（クローラー）付きのボディー3つを縦につないだタイプである。小型（長さ121cm、幅14.5cm、高さ12.2cm）だから、瓦礫の隙間にも十分入れる。3つのボディーの連結部は上下左右に動くため、体をくねらせながら凸凹の不整地でも難なく走行できる。

ロボットの前部にテレビカメラや集音マイクなど瓦礫内部の探索装置、中央部にモーターとバッテリー、そして後部には遠隔操縦のための無線装置を搭載している。また、3つのボディーは簡単に切り離すことができるから、例えば前部をコンテナ（被災者に届ける食料・医薬品や小型ジャッキなどを積載）に付け替えるなど、目的や状況に応じて機能を柔軟に変更することができる。

また、側面にも無限軌道を付けて横転後もそのまま進行可能なタイプや、側面のアームを動かして障害物を乗り越えられるものなど、ヘビ型レスキュー・ロボットだけでも実に様々なバリエーションが登場している。



無限軌道（クローラー）付きヘビ型ロボット「蒼龍Ⅲ号機」（提供）東京工業大学の福島研究室/広瀬茂男名誉教授

## クネクネした動作 ヘビの多関節に注目

東京工業大学准教授の福島・エドワルド・文彦氏は、クネクネした動作を可能にしているヘビの多関節に注目する。そして、「（ヘビのように）数え切れないほどの関節を持つアームを開発できれば、さらに用途が広がるはずだ」と目を輝かしている。

日本企業の得意分野である産業用ロボットは関節を幾つもち、複雑な作業をこなす。ただし、関節が多くなるほど制御は複雑になる。無数の関節でつながれている、ヘビの柔軟な動作を応用できれば、ロボットの制御は格段に容易になるというわけだ。

世の中には、「金運が高まる」と信じて財布にヘビの抜け殻を入れておく人がいる。ヘビ革のバッグは高価だが、愛好者は少なくない。「体にいいから」といってヘビ料理を食す人もいる。その猛毒で人命が危険にさらされるかと思うと、酒に漬け込んだり煎じたりして薬にすることもある。

ヘビは毒にも薬にもなる不思議な動物。見た目は不気味でも、使い方次第で人間の役に立つ。将来、ヘビ型ロボットも社会に不可欠の存在になる日がやって来るだろう。



©iStockphoto.com/IRISB

## 全国の水道局長がビクビクする「虫」 万一、発生してしまうと…

環境・資源・エネルギー研究室 主任研究員 柳橋 泰生

### 18年前、埼玉の小中学校で起こった「ミステリー」

1996年6月、原因不明の下痢が埼玉県越生（おごせ）町の小中学校で多数発生しているとの情報が、県の保健所に寄せられた。集団食中毒の疑いもあり、学校給食や水道水、井戸水などの検査が即座に実施されたが、食中毒を引き起こす菌やウイルスは一切検出されなかった。

ところが、一般家庭でも同様の症状を訴える者が続出した。まるでミステリー小説のような展開である。発症者全員が同じ水道水を利用していただけ、改めて詳しい検査が行われた。

その結果、「クリプトスポリジウム」という、一般には知られていない病原微生物が患者の便や水道水から検出された。被害者は8000人を超え、実に当時の町の人口の6割強。これが、水道水を介したクリプト集団感染事件の国内第1号となった。

それから18年。今、「水道水の水質問題で何に一番気をつけていますか」と全国の水道局長に尋ねると、間違いなく「クリプト」という答えが返ってくる。

日本の近代的な水道施設は、1887年に横浜で最初に建設された。開国後、欧米人を通じてコレラや赤痢といった伝染病の菌が持ち込まれ、その対策の一環として日本の水道の歴史が始まったのである。

しかし、越生町のクリプト集団感染事件では、伝染病対策で導入されたはずの水道が、皮肉なことに伝染性の下痢を爆発的に発症させた。このため、全国の水道局に衝撃が走り、それ以来、クリプトには「水道にとって最も危険な微生物」というレッテルが貼られることになる。

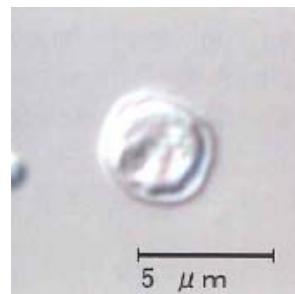
### ノロウイルスに匹敵！クリプトの強烈な感染力

クリプトは元々、ウシやブタ、イヌ、ネコ、ネズミなどの腸に寄生している原虫（単細胞の微生物）である。ただし、人にも感染する可能性があり、その場合の潜伏期間は3～10日程度。発症すると、下痢が一日に何度も起きるが、数日～3週間程度で自然治癒する。大きさは5ミクロンメートル程度だから、人間の髪の毛の太さの10分の1にも満たない。

クリプトの第一の特徴は、細胞を包んでいる分厚い殻。このため、浄水場で水道水に注入される塩素では死滅しない。ただし、熱には弱いから、水を煮沸すれば死滅させることができる。

第二の特徴は、強烈な感染力である。世界保健機関（WHO）の報告によると、健康な人にクリプトが数個含まれた水を飲ませただけで、感染したという。例えば、強い感染力が恐れられるノロウイルスでさえ、10～100個単位でなければ人間には感染しない。クリプトの感染力はノロ並み、もしくはそれを上回るといってよいだろう。

第三の特徴は、非常に高い増殖力である。クリプトが人間や動物の口から入ると、その腸の中で殻が破れて「子ども」のようなものが飛びだし、猛烈なスピードで増殖する。1人の発症患者から検出されるクリプトの数は、10億個にも達するといわれる。越生町の事件では、浄水場の上流側に下水処理施設が稼働していた。このため、感染者から排出されたクリプトが下水から上水に混入し、感染が爆発的に拡大したとみられている。



クリプトスポリジウム  
（出所）日本水道協会  
「上水試験方法2011年版」

クリプトによる水道を通じた集団感染事件は、世界各地で発生している。1993年、米国ウィスコンシン州ミルウォーキーでは、市営水道がクリプトに汚染され、40万人以上が感染。水道水を取り入れている川の上流にある下水処理場や、牛の放牧場が汚染源として疑われている。また、1997年には、ロンドン郊外で345人が発症する事件が発生した。井戸がヒツジやウシの放牧場に囲まれており、そこからクリプトが混入したと考えられている。

## クリプトには怖い仲間が…感染者は世界数億人

クリプトにはよく似た仲間がいる。その名は「ジアルジア」。日本でこの微生物による水道を介した感染事例はないが、米国では多発している。ジアルジアもクリプトと同様、分厚い殻に包まれており、塩素が効きにくい。感染者数は世界中で数億人規模といわれ、中でも熱帯から亜熱帯に多く、感染率が20%を超える国もある。日本では、戦後の混乱期に3~6%に達していたという。



ジアルジア  
(出所) 日本水道協会  
「上水試験方法2011年版」

実は日本でも河川では、クリプトとジアルジアが頻繁に検出されている。関東平野を流れる利根川の水を測定すると、水10リットル中に1~10個程度、多い場合は100個近くも検出される。浄水場で除去されず水道水に混入すると、感染する可能性があるレベルだ。

越生事件を受けて、全国の水道局は一斉にクリプト対策に乗りだした。水道水の濁り具合（濁度）が高いと、クリプトやジアルジアが含まれている可能性も強まる。このため、各水道局は濁度の基準値を20倍に引き上げ、厳しく管理するようになった。ろ過処理では従来の砂に加え、合成樹脂の膜（フィルター）が使われはじめた。越生町では事件発生から2年後に膜ろ過施設が完成し、安全対策を徹底している。



東京都水道局・砧浄水場（世田谷区）にある国内最大規模の膜ろ過施設（出所）東京都水道局ホームページ

18年前の越生事件以降、水道を介したクリプトやジアルジアによる感染事件は国内で発生していない。濁度管理の強化や膜ろ過施設の普及が奏効したと考えられよう。しかし今も、プールが感染源になったり、あるいは原因不明の集団感染が発生したりしており、全国の水道局長は目に見えない「虫」への警戒を片時も怠ることができない。



© iStockphoto.com/RISB

# プロ野球開幕 日本シリーズと景気の深い関係 市場が無視できないジンクスとアノマリー

経済研究室 研究員 可児 竜太

3月28日、プロ野球が開幕した。昨年は東北楽天ゴールデンイーグルスが初めて日本一になった。東日本大震災からの復興を目指す、本拠地の仙台市ほか東北地方の被災地に勇気がもたらされた。その一方で、読売ジャイアンツはセ・リーグを制覇したものの、惜しくも2年連続の日本一を逃した。

「巨人に勢いがあるときは景気が良い」一。そんなジンクスがある。安倍政権がアベノミクスを推進した昨年、日経平均株価は57%もの大幅な上昇率を記録した。1950年以降、巨人がリーグ優勝した年の株価の上昇率は平均14.8%に達している。これは、同期間における年間上昇率の平均11.5%を優に上回る（ただし、阪神は15.3%！）。

## 日本シリーズが人気チーム同士なら…

球界と景気の関係では、少し複雑ではあるが、より「確かな」法則もあるようだ。三井住友アセットマネジメントの理事・チーフエコノミストの宅森昭吉氏によると「日本シリーズの対戦カードと景気の相関関係はかなり深い」という。すなわち、シリーズに進出する球団の人気が高いほど、景気は拡張局面にあることが多いというのだ。

宅森氏はまず、スポーツ世論調査（読売新聞）の人気球団ランキングに基づき、日本シリーズに進出したセ、パ両チームの人気順位を合計する。例えば、2013年日本シリーズでは、巨人の人気順位がセ1位、一方の楽天はパ2位だから、人気合計は3となる。

同様に計算した人気合計と景気の間関係を1986年以降で見ると、図表1のような関係になる。合計値2～5という人気球団同士による日本シリーズの開催時期は、実に16回中15回が景気の拡張局面にあった。なお、2012年のたった一回の後退局面においても、景気の谷が11月にあったとみられ、日本シリーズ（10月27日～11月3日）によって拡大局面に転じたといえなくもない。

この日本シリーズと景気の関係について、宅森氏は「ただのジンクスではない」と指摘する。人気球団ほど抱えるファンの数が多くなるから、優勝セールの上り上げは伸び、祝杯をあげる飲食店も大いに繁盛すると考えられる。しかしそれだけでなく、「中小企業の設備投資を押し上げているのではないか」というのだ。

例えば、昨年のように徐々に景気回復を実感できる局面では、中小企業の経営者は設備投資に踏みみるべきか迷っていた可能性が高い。その時、ひいきにする球団の活躍が経営者の背中を押し、設備投資が実行に移されたというわけだ。

前述した通り、2013年日本シリーズの人気合計は3。事実、同年10～12月期の法人企業統計によれば、中小企業の設備投資は前年同期比10.8%増となり、2年ぶりの二ケタ成長。これは、昨年10月26日～11月3日の日本シリーズ開催時期にちょうど重なる。

（図表1）日本シリーズ対戦カードと景気（1986～2013年）

人気度 ランキング計	回数	景気局面		暦年実績
		拡張	後退	GDP成長率平均(%)
2～5	16	15	1	1.99
6	5	2	3	1.42
7～8	7	2	5	1.03

（出所）三井住友アセットマネジメント  
（注）2013年の実質GDP成長率は、同年10～12月期第一次速報値

## 干支と株価の相関関係 今年は何下がり？

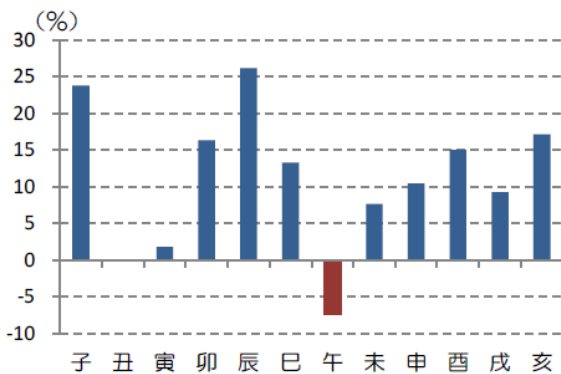
「午（うま）の尻下がりとか言う人がいますが、そんなことは皆さん、忘れて下さい」一。昨年12月30日、東証大納会に出席した安倍晋三首相はいさつの中で、株式相場の格言について触れた。

「辰巳（たつみ）天井、午（うま）尻下がり、未（ひつじ）辛抱、申酉（さるとり）騒ぐ、戌（いぬ）笑い、亥（い）固まる、子（ね）は繁栄、丑（うし）つまずき、寅（とら）千里を走り、卯（う）跳ねる」一。この格言に基づくなら、2014午年の株価は下落傾向が予想されるが、首相はアベノミクスに自信満々だから、あえて兜町のジンクスをとり上げたのだろう。



実際のところ、1950年以降の株価の騰落率（図表2）を見ると、この格言が全般的な外れというわけでもない。

（図表2）干支ごとの日経平均株価の騰落率  
（前年末比平均、1950～2013年）



（出所）日本経済新聞のホームページから筆者作成

近年の相場を見ても、ITバブルが拡大した1999卯年～2000辰年はまさに「卯で跳ねて辰の天井」。リーマン・ショック前の2006戌年～2007亥年も、アベノミクスもまだ超えられない高値圏。そして昨年巳年の株価は、1950年以降で4番目となる大幅な上昇をみせた。しかし、それがもし「天井」だったのなら、やはり今年は尻下がりなのか？ 実際、執筆時点（3月17日）で年初から12.4%ほど下げている。午年は十二支の中で最も成績が悪く（マイナス7.5%）、再来年の2016申年まで辛抱なのかもしれない。

## 金曜夜に相場を攪乱する「ジブリの法則」

市場関係者の中では、このようなジンクスのうち、特に日々の相場に影響を与えるものをアノマリー（理論的な説明はつかないが、規則的に繰り返される現象）と呼ぶ。生き馬の目を抜く為替ディーラーや株式トレーダーのことだから、アノマリー探しには余念がない。

近年、特定の金曜夜に市場関係者の間で盛り上がっているアノマリーが「ジブリの法則」である。これは、「スタジオジブリのアニメ映画がテレビで放映されると、為替や株価の動きが荒っぽくなる」というものだ。



© iStockphoto.com/RISB

例えば、2013年8月2日午後9時、宮崎駿監督の「天空の城ラピュタ」が放映された際、市場関係者や個人投資家の間ではドル・円相場の予測をめぐり、ツイートが激しく飛び交った。放送開始直後、円相場は1ドル＝99円台から100円をうかがう地合いだったが、大方の予想に反して円高になり、午後9時半ごろ98円台に突入した。

近年、ジブリ作品はすべて日本テレビ系列「金曜ロードSHOW!」の枠で放送されている。実は、市場関係者が固唾（かたず）をのんで待つ米雇用統計が原則、毎月第一金曜日の午後9時半（日本時間、冬季は午後10時半）に発表され、それが「金曜ロードSHOW!」の時間帯に重なっているのだ。このため、ジブリ作品が為替相場や株価に影響したようにみえるケースが多い。

金融データを分析する上で、「ある出来事の発生が、その後の特定事象（例えば株価など）の動きに影響を与えているか否か」を統計的に判断するイベント・スタディという手法がある。筆者がこの手法を使い、過去141回のジブリ作品放送（＝ある出来事）が翌営業日以降の日経平均株価（＝特定事象）に与える影響を推計したところ、意味のある結果とはならなかった。

以上のようなジンクスやアノマリーを考える上で、ネイト・シルバー氏の書いたベストセラー「シグナル&ノイズ」が参考になりそうだ。2008年米大統領選の結果をほぼ完璧に予測し、一躍脚光を浴びた統計家である。同氏によると、予測という行為自体が時には人間の行動に影響し、その行動の変化が予測そのものを実現してしまうことがあるという。

例えば、「ある病気が増えるだろう」といった予測がメディアを通じて世の中に広まると、人々がその症状を気にかけるようになる。また、医師もその病名を強く意識して診断に当たるため、統計上はその病気が急増する傾向が見られるという。

同様のことは、市場に絡むジンクスやアノマリーにもいえる。経済学でいうところの「自己実現的期待」。つまり、皆がそうなるだろうと予測することにより、現実それが実現されてしまう。多くの市場参加者が予測通りに行動すれば、その判断が合理的でなくても、特定の相場が実現されてしまう。ただの偶然では笑い飛ばせない、不思議な力が市場には働いている。

本稿はいかなる金融商品についても勧誘を意図するものではありません。掲載されている見解は、特定の金融商品や投資戦略を勧めるものではありません。金融商品に関する判断は投資家自身で行うようお願い致します。

## メディアの未来を考える 金山勉・立命館大教授との対話

インターネットの急激な発展により、情報は一瞬のうちに国境を越えて地球を一周する。携帯電話1台あればだれもが「メディア化」する時代になり、紙や電波を媒介にして情報を有料提供していたマスコミは自己変革を迫られている。将来、メディアはどう進化していくのか。立命館大学の金山勉教授（マスコミ学）との対話を通じ、この問題を考えた。

**編集長** 「無冠の帝王」として君臨してきた新聞業界にも、デジタル化の荒波が押し寄せている。

**教授** 日本では、日経、朝日両紙が牽引する形で新聞のデジタル化が加速している。日経電子版は有料会員が30万人を突破し、損益分岐点を超えるようになるのではないかと。その一方で、新聞記事は新聞社の紙面やウェブサイトだけでなく、ヤフーなどのポータルサイトで盛んに読まれるようになった。「新聞離れ」が指摘されるが、若者が新聞記事に接する機会は意外に増えている。そういう意味で全国紙の一部は存在感を維持しており、地方紙がデジタル化にどう対応していくのかに注目したい。

米国の新聞界では一時、USAトゥデー紙がそれまで同国に存在しなかった「全国紙」のポジションをつかんだ。ところがそれに慢心したのか、電子化の波に乗り遅れてしまい、ウォール・ストリート・ジャーナル紙のデジタル戦略にやられた。それに続いて、ニューヨーク・タイムズ紙も有料会員を伸ばしている。「紙」にこだわるほど、「負け組」になる。本来、新聞社は必ずしも「紙に印刷する会社」ではない。情報の伝達手段はどうであれ、「新しく聞いたものを伝える会社」という原点に戻る必要がある。

**編集長** 雑誌も電子化への対応を迫られているが。

**教授** 雑誌はゲリラ的というか、自由なジャーナリズム活動を持ち味にしてきた。新聞やテレビのような時々刻々ではなく、週刊あるいは月刊という一定タイムスパンの中で読者に読ませなくてはならない。

生き残り戦略の基本はやはり、電子化になるだろう。今の若者は漫画のページをめくるのではなく、パネルをスライドさせて読んでいます。将来、情報のほとんどを「指で読む」ようになり、紙を手にならなくなるかもしれない。ただし画面を読むだけで、人間の記憶や理解という能力が身につくのだろうか。疑問が残るところだ。



金山 勉氏（かなやま・つとむ）  
立命館大学産業社会学部教授。  
1960年生まれ。放送局でのアナウンサー・記者経験を経て、1998年米オハイオ大学で博士号（マスコミ学）取得。上智大学文学部新聞学科で教鞭を執り、2004～05年米ジョージワシントン大学フルブライト客員研究員としてワシントンDCに滞在。09年上智大学教授を経て現職。

**編集長** ネット時代でも、テレビは健闘しているようにも見える。

**教授** ソチ冬季五輪では私も眠い目をこすりながら、テレビの前で女子フィギュアスケートの浅田真央選手らを応援していた。「今ここで起こっているコト」を提供し、視聴者に同時感覚を与えられる能力が、テレビの最大の強みだ。録画ではなく、リアルタイムで見たい、知りたい、聞きたいという欲求は、人間の本能だと思う。料理を「熱々」で食べたいのと似ている。

**編集長** 例えば、サッカーのW杯でグーグルなどが独占放映権を獲得し、ネット配信を行うようになると、テレビの「最大の強み」も怪しくなるのではないかと。

**教授** そうなれば確かに、放送と通信の関係が劇的に変わり、その間の垣根が消えてしまうかもしれない。その際に問題となるのは、「だれでも見られるのか」という公共性。ネット配信の場合、番組を見たい人が専用の機器を買い、通信回線を使ってコンテンツ提供者にアクセスし、その対価を支払わなくてはならない。ただし、テレビでも公共放送は国民に視聴料を求めるから、タダというわけではない。

一方、テレビ局も公共か民間かを問わず、ニュースを中心としてネット配信に乗りだしており、将来は放送を免許事業の枠の中に閉じ込めておけなくなる可能性がある。テレビが世界最大級のメディアイベントであるW杯をどれぐらい美味しく料理できるかで、最終的に「ネットVSテレビ」の勝敗が決まるだろう。

**編集長** デジタル化によって、ジャーナリズム自体が変質したように思う。記者会見では、記者がアヒルの水かきのようにキーボードをたたいて、情報を集めることだけに熱中している。

**教授** 古代から中世の欧州でいうアゴラ（広場）、すなわち公共の空間に皆が集い、その瞬間にどういう知識や洞察を共有できるか。あるいはお互いに触発しあえるか。そういう人間本来の研ぎ澄まされた感性が、十分発揮できなくなっている。会見場にパソコンを持ち込むことにより、記者はそういう能力を無意識のうちに封印している。

**編集長** 既存メディアへの不満や失望を背景に、ツイッターやフェイスブック（FB）などのSNSが爆発的に普及したが。

**教授** 問題もある。ネット上では、読みたくないものは読まなくて済む。だから、「自由な言論空間」といわれていても、真逆に行ってしまう、少数の極端な意見に言論統制されてしまう恐れもある。ツイッターやFBは興味や関心を引くアテンション・ゲッター、すなわち「お友達同士の井戸端会議」ととらえることもできるから、SNSの利用には留意が必要だ。

**編集長** 米国では、企業がマスコミに頼らず自らコンテンツをつくり、ネット上で情報発信する「オウンド・メディア」も盛んになってきている。

**教授** その背景には、企業自体のソーシャル・メディア化がある。つまり、（新商品を大量に売りさばくといった）特定の目的のために特定のメッセージを消費者に届けるだけでなく、企業の考え方や存在感をどれだけ社会に示せるかが非常に重要になった。そうしたことが、消費者の記憶に残り潜在するからだ。

例えば、ライフスタイルの中にさりげなく自社製品を位置づけ、オシャレな使い方を提案しないと、なかなか消費者は選んでくれない。言い換えれば、商品の機能と価格だけでなく、企業の発信する「ストーリー」も消費者が買うか買わないかを決める要因になる。消費者は自分のストーリーの中にそのストーリーを当てはめてノスタルジーを感じたり、将来に向けて期待を抱いたりする。

ただし、消費者のストーリーは一人ひとり異なるから、企業のストーリー発信は簡単ではない。また、企業を営利追求の存在と考えると、うがった見方も必ず出てくる。だから、企業がオウンド・メディアを運営する場合でもマスコミ同様、社会から「ウソをつかない」と信頼されなくてはならない。そのためには、オウンド・メディアの編集が経営からある程度、独立性を保つことが必要。長期的な視点では、それが企業の発展に資する。

## RICOH Quarterly HeadLine Vol.3 2014 春

発行日 2014年4月1日

発行人 稲葉 延雄

編集長 中野 哲也

副編集長 花原 啓

発行所 リコー経済社会研究所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5

丸の内北口ビルディング20F

ホームページアドレス

<http://www.ricoh.com/ja/RISB/>

本誌記事・写真の無断転載を禁じます。

RICOH Quarterly HeadLineへのご意見やご提案は、

[risb@nts.ricoh.co.jp](mailto:risb@nts.ricoh.co.jp) へお願いいたします。

RICOH  
imagine. change.

その複合機は、停電しても眠らない。



世界初<sup>\*1</sup>

バッテリー搭載据置型プリンター複合機、誕生。  
**RICOH SG 3120B SF**

本体標準価格 オープン価格

※写真はイメージです。

「もしも」のときに、できること。

コピー/プリント

バッテリー1本でコピー約500枚、プリント約1,000枚の連続出力(いずれもA4)が可能。未使用状態での待機時間は約17時間。いざというとき頼れる複合機です。

ファクス

電話回線が使用可能なら、停電時でも送信約300件、受信約250件のファクス利用が可能。電話回線から給電される電話機を外付けすれば、音声通話もできます。

携帯電話などの充電

本体前面にUSBポートを装備。USB給電できる携帯電話やスマートフォンを接続して充電もできます。また本体の排出口には、停電時に状態を確認できる照明も備えています。

コピー	プリンター	スキャナー
自動両面印刷	ファクス	FASEC

A4 A4 フルカラー 連続 29<sup>\*2</sup> 枚/分  
A4 モノクロ

ネットワーク対応  
・USB2.0対応  
・有線/無線LAN対応

リチウムイオン  
バッテリー搭載



\*1 ファクス機能付複合機において(2013年12月時点、リコー調べ)。 \*2 リコーオリジナルチャート「高速モード」、A4縦送り連続印刷時。

詳しくはホームページへ >> <http://www.ricoh.co.jp/printer/sg/3120bsf/>

お客様相談センター  
050-3786-3999

●受付時間：平日(月～金)9時～12時、13時～17時(土日、祝日、弊社休業日を除く) \*050ビジネスダイヤルは、一部のIP電話を除き、通話料はご利用者負担となります。 \*左記番号をご利用いただけない方は、03-4330-0368をご利用ください。 ※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただいております。

株式会社リコー  
東京都中央区銀座 8-13-1 リコービル 104-8222

●発行日 2014年4月1日 ●発行人 稲葉延雄 ●編集長 中野哲也  
●発行所 リコー経済社会研究所 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビルディング20F